

月例経済報告の基調判断

2009年 7月	↗	このところ持ち直しの動き
8月	→	同上
9月	→	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動き
10月	→	持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況
11月	→	同上（約3年ぶりにデフレ認定）
12月	→	同上

菅直人副総理・経済財政相は22日、12月の月例経済報告を関係閣僚会議に提出した。景気の基調判断については「持ち直してきている」との表現を5カ月連続で据え置いた。ただ設備投資の判断

12月月例報告

設備投資「弱い動きも」

前月の上方修正から一転

菅直人副総理・経済財政相は22日、12月の月例経済報告を関係閣僚会議に提出した。景気の基調判断については「持ち直してきている」との表現を5カ月連続で据え置いた。ただ設備投資の判断

断は据え置いた。11月の月例報告に続き「緩やかなデフレ状況にある」との判断も維持した。米国経済の判断については上方修正し「持ち直している」と指摘した。個人消費が上向き「クリスマス商戦も底堅い」（内閣府）とみている。

菅副総理は閣僚会議後の記者会見で「10年度予算をきちんと年内に編成することが景気への積極的なメッセージになる」と述べた。

鳩山由紀夫首相がガソリン税などの暫定税率を維持する代わりに、2兆円の対策を指示した点については「雇用対策にあてていく」との考えを示した。